



2021-2022
国際ロータリーのテーマ

高萩ロータリークラブ

TAKAHAGI
ROTARY CLUB
WEEKLY

国際ロータリー第2820地区
1970年10月30日設

発行
2021.10.6
第52巻
第9号
通巻
2430号

ロータリー月間 10月:地域社会の経済発展/米山 11月:ロータリー財団

9月29日例会より

『新井和雄ガバナー公式訪問』 ZOOM 例会

歓迎 ようこそいらっしゃいました

国際ロータリー第2820地区

2021-2022年度ガバナー

新井 和雄 様 (下館 RC)



上、本日の公式訪問の例会場(月乃家会議室)高萩市総合福祉センター研修室で例会を実施する予定であったが、コロナ禍緊急事態で使用できず、本日の公式訪問会場は、日ごろ、臨時の例会場として活用している月乃家「会議室」である。ZOOMのホストは大高司郎会員、ここが拠点である。

正面の掲額は、2000-2001年度第31代鈴木啓志会長(雅号赫鳳 新制日展会員。読売書法会常任理事)の揮毫をいただいた。オンライン例会で、鈴木直登会長が、歓迎のあいさつである。

新井和雄ガバナーのごあいさつ

みなさん、こんにちは。ZOOMによるオンラインの公式訪問有難うございます。

高萩ロータリークラブは、ご縁の深いクラブです。鈴木会長は、地区のロータリー財団委員会で一緒に仕事をいたしました。そして、今年も、大高司郎さんが、地区のクラブ奉仕総括委員長として活躍していただいております。高萩ロータリークラブは

ZOOM例会の開催

昨年以來、例会は、新型コロナウイルス感染症の対策として、細心の対応を進め、会場とオンラインと両方のいわゆる、ハイブリッド例会を続けてきた。

ところが、9月12日茨城県下に、緊急事態宣言が施行され、県北の罹患状況も増加傾向となってきた。クラブは、常陽銀行高萩支店の例会場も閉鎖、公共施設も使用できず、この状況のなか、9月の例会は、ZOOM 例会としてスタートした。ハイブリッド例会以上に難しい選択であった。

新井ガバナーの特段のご高配を賜り、公式訪問をZOOMによるオンライン例会とした。今号はその報告である。

月 日	プログラム	担 当	9月29日 出席報告		
			会員数	出席者	欠席者
10月6日	米山奨学生卓話	米山記念奨学会	32	16	11
10月13日	職場見学	職業奉仕委員会	出席率: 100%		
10月20日	観月会	親睦・家族委員会	前々週訂正: 100%		
10月27日	卓話(経済について)	プログラム・雑誌委員会			

事務所: 〒318-0033 高萩市本町2-65
常陽銀行高萩支店内 TEL/FAX: 0293-24-0505

■URL: <https://www.takahagirc.jp>

■E-Mail: takahagi-rotaryclub@h7.dion.ne.jp

会 長: 鈴木直登

幹 事: 福田文乃

例 会: 毎週水曜日 12:30~13:30

公共イメージ委員: 小森勇一 大河原浩 大高司郎
棚谷稔 田所和雄 石平光 今川隆 大平敏明 滝徳宗

四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

つながりの深いクラブです。

公式訪問ですので、本日は、国際ロータリーシェカール・メータ会長の方針、そして、私の方針を卓話でお伝えいたします。

本来ですと、写真のロータリー車で訪問、広報も兼ねて、披露いたします。

ガバナー公式訪問卓話

第 2820 地区 新井和雄ガバナー



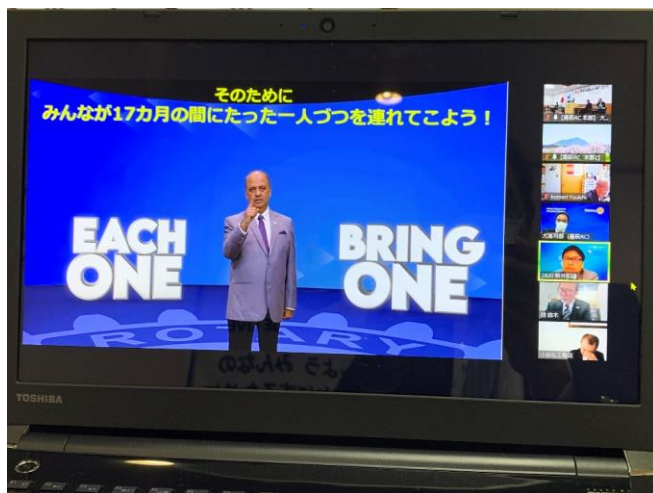
Zoom 例会ということで、会員には左の画面から始めたが、新井ガ

バナーご自身で、ZOOM 画面共有しパワーポイントを操作、以下のように、熱心に卓話を始められた。以下その概略である。

今年度のテーマ

例年、国際協議会にすべてのガバナーエレクトが参加し、来るべき年度の国際ロータリーのテーマを研修し協議するが、私の年度については、オンライン開催となった。残念なことではあるが、それを超えて討論が深められた思いである。

ガバナーは、その時のシェカール・メータ会長の講演の動画を紹介してくれた。(下の写真)



今年度のテーマは、

“SERVE TO CHANGE LIVES”

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするため」メータ会長は、今、奉仕のニーズは高まっているという。インド出身の会長であり、ガンジーの逸話を示して、奉仕の理想を語りかけてくれた。

ガバナーは、メータ会長がはじめに力説した、



「国際ロータリー120万会員を130万会員に増強したい、何故増やすか、もっと活動するためにです」という願いを、紹介、伝達してくれた。

大きな2つの目標

次に、メータ会長が強調したのは二つの大きな目標です。

一つは、女子のエンパワーメント。今でも教育を受けられない女子、望まない早婚の強制など女性であるが故の不利な人生を強いられる。その解決と多様な能力開発に努力したい。

二つ目は「環境保全への取り組み」である。国際ロータリーは、6つの重点分野を指定し、奉仕活動に取り組んできたが、7番目の重点分野として、「環境保全」が目標となった。

地区スローガン

国際協議会の提起に応え、新井ガバナーは、今年度の地区スローガンを決定した。

“Think Globally, Act Locally”

「地球の未来を想い 地域社会に貢献しよう」この目標に即して、「海岸美化プロジェクト」は、具体化された。

海岸美化プロジェクト

9月12日に設定された「海岸美化プロジェクト」は、当地区では延期されたが、世界各地ですでに実行されている。

2月の国際協議会で、「茨城と一緒に海岸清掃をしませんか」と呼びかけたところ、多くの賛同の意見があり、すでに実行されている。

アメリカのヒューストン、ウクライナ、ネパール、フィリピン、韓国、台湾、ケニア、国内の地区では、新潟、長野、滋賀、兵庫、岡山ですでに実施されたという。

高萩ロータリークラブの実践が世界へ

新井ガバナーが、高く評価したのは、世界に広がったこの実践が、高萩ロータリークラブの長い間の奉仕活動が原点となって、世界に広がったと

いうことであった。

というのも、海岸美化プログラムが昨年度、池田ガバナーのもとで企画される段階で、1974年に始まる高萩ロータリークラブの海岸清掃活動が報告され、実践に直結したとのことである。

ガバナーの話を伺い、感銘した次第である。

地区目標・具体的行動指針

卓話の残り時間も迫ったところで、ガバナーは、地区目標と具体的行動指針の

- 1 環境保全の推進
- 2 持続可能な地区運営体制の強化
- 3 質の高い奉仕活動の推進
- 4 公共イメージの向上
- 5 ロータリー財団の活用と支援
- 6 米山記念奨学会の支援
- 7 ヒューストン国際大会に行こう

の各項について詳しい説明と要請を行い、最後にヒューストンの案内ビデオで、皆さん一緒に参加しましょうと、卓話を締めくくった。

話を伺い、新井和雄ガバナーの国際性豊かな力説に拍手をおくった次第である。



クラブ役員との事前協議会

公式訪問では恒例のクラブ役員との事前協議会が、新井ガバナー、鈴木稔ガバナー補佐とともに、当クラブ役員で、オンラインで開催された。

ガバナーからのご質問は、次の4点である。

- 1 コロナ禍でも環境問題に関する奉仕活動は屋外なので、取り組みやすいのではないか。
- 2 今年度のクラブ会長方針について戦略計画と絡めて説明していただきたい。
- 3 戦略計画はどのように構成されているか、また、3年計画ですが、毎年見直すのか。
- 4 クラブの細則で、高萩ロータリークラブの特徴はあるか、あればどういう表現で示されているか。

これに対し、会長から説明した所である。

ガバナー補佐 鈴木稔様(日立港RC)

公式訪問随行ご苦労様です。



本日の公式訪問には、先週の事前訪問に引き続き、第1分区ガバナー補佐鈴木稔様が、同行いたしております。

前号で報告しましたように、公式訪問の事前研修として、去る22日卓話をいただき、本日も参加していただいております。

なお、ガバナー補佐セクレタリー、藤田博様(日立港 RC) ご出席有難うございます。紙上をもって大歓迎の意を表します。

公式訪問日程 その3 13:40~ クラブ協議会

公式訪問の例会が終了し、10分間の休憩をはさんで、本日の最後の日程であるところの、クラブ協議会を開催した。

本年度各委員会委員長並びに会員の参加を得て13時40分開会した。石君平SAA委員長の開会宣言の後、鈴木会長が司会進行を進め、各委員会から今年度方針などを報告し、ガバナーの指導や示唆をいただいたところである。

以下はガバナーの指導や発言の概要である。

会員組織委員会

最近は多様性を強調する時代になり、女性や、いろいろな分野、職業の方を迎えている。例えば、パラスポーツの選手や、NPOの代表なども入会している。

会員の維持については、ロータリー会員になっても、ロータリアンに成長するというのは大変なことです。誰もそれを自覚しているが、達成できない思いがある。

下館RCには、衛星クラブがあり、若い方が勉強している。そうゆう繋がりを活かすことも有効です。

クラブ管理運営委員会

プログラム、出席管理、ニコニコBOX、親睦活動、公共イメージの向上と、多岐にわたるが、

コロナ禍のなかでも、状況をしっかりとらえて進めたい。

今だからこそ、オンラインで、卓話を依頼することもできる。コロナの時だからこそ、ZOOMでメイクアップもできるということもあります。

楽しいプログラムは工夫が求められます。皆さんが関心のある方を読んで卓話を聞くことも必要です。

ニコニコBOXは苦勞が多いですが、いろいろなお祝いのかねて、寄金を御願いますことが肝要です。

公共イメージの向上は、自信をもって奉仕作業を継続し、地元で信頼を勝ち取ることです。

奉仕委員会

ロータリーが始めた、ポリオ根絶の奉仕活動は、他の団体や、国、国連を動かし、今や、根絶に近づいています。アフガニスタンはどうかという心配もありますが、タリバン政府が、ワクチンを打つと言えば、根絶できると考えています。

今、ネパールでは、韓国、日本、タイ、台湾のロータリーが協力して、国をまたいで、コロナ対策事業を進めています。

当クラブが進めている、出前講座も素晴らしいと評価しています。

この指とまれのように、国際奉仕については他のクラブとしっかり協力して進めるのはよいことだと考えています。

ロータリー財団委員会

地区の財団の寄付目標は、150ドルであるが、日本のロータリーの目標は、180ドルです。あえて地区目標が低いのは、いろいろ経済状況も違うので、会員の状況に対応ことにしている。すべて平等というより、会員の公平感、後世間を重視しています。

その不足分は、ポール・ハリス・ソサイティ等、年間1000ドル以上の寄付者などで補填している。おかげさまで、当地区は、日本のロータリーのなかでも上位を維持している。

米山記念奨学会委員会

日頃の協力に感謝しているが、奨学生の出身国のバランスをとという声も多く、1国で4割までと上限を考えている。

SAA 会場監督委員会

こうして、ZOOM例会も慣れてくると使いやすい。平常の例会と遜色なく進行できているのは大変良

い。行事や計画は、安全第1に計画し、実行直前には、判断を的確にして、進んでもらいたいと願っています。

こうして15時10分全日程を終了した。



上 記念写真

鈴木直登会長のあいさつと謝辞

新井和雄ガバナー、ようこそ高萩へ。この言葉を実質として使えない今日、気分が沈んでいます。鈴木稔ガバナー補佐、そして藤田博セクレタリーお二人には先週に引き続きのZOOM会議出席となりました。ありがとうございます。

当高萩ロータリークラブは1970年10月30日23名のチャーターメンバにて創立致しました。昨年50周年記念事業も恙なく終了し、次の50年に向けたスタートしたところです。

一番長く在籍の会員は1990年に入会された鈴木啓志会員です。彼は40歳で加入されました。今回もこの題字に揮毫をいただきました。

さて、クラブの戦略計画の中でクラブの短所として、会員構成(多様性)のバランスが取れていない、職業分類に偏りがある、年齢層に偏りがあるの三点を挙げておりますがこれは当市の人口が増えない、そうではなく減っていることが大きな影を落としています。

戦略目標に6つの目標を(行動計画)を掲げましたが人を見つけるのは本当に難しい。よく言われる言葉に「組織は人がつくる」であり継続性が大切です。継続するには人が必要になります。新井ガバナーの会社名に使われている「レジリエンス」弾力・回復力・復元力等を兼ね備えたクラブに会員一丸となってクラブ活動を積み重ねていく所存です。本日は、長い時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

閉会の点鐘に際し、謝辞を述べ、感謝の意を申し上げます。